

社会学の古典を読む

6月6日・13日・20日・27日

10:55~12:25

各回 木曜日



講師：流王 貴義

東京女子大学 現代教養学部
国際社会学科 社会学専攻
准教授

- ・対象 一般（社会人・卒業生・教職員等）、学生
※定員超過の場合は、区民優先
- ・会場 6号館 1階 6115教室
- ・受講料 無料
- ・定員 150名
- ・申込締切 5月28日（火）
- ・お申込み 詳細、お申し込みは、 ↓ →
https://www.twcu.ac.jp/main/event/2024/0606_01.html



■ お問い合わせ ■

東京女子大学 教育研究支援課

E-mail: koukaikouza@gr.twcu.ac.jp

Tel: 03-5382-6470

月～金（祝日を除く）9:00～17:00（11:25～12:25を除く）

講師からのメッセージ

現代社会はいったいどこへ向かっているのか。私たちの前に広がる未来は、過去の安定した時代と比べると、不透明で困惑を覚える存在に思えるかもしれません。

そんな時代に、過去の社会について書かれた本を読んで何の意味があるのでしょうか。人工知能やスマートフォンはおろか、インターネットすらなかった時代に書かれた本から、いまさら社会の何を学べるのでしょうか。実際のところ、何を学べるのかは、私にもわかりません。

しかし少なくとも私は、現代において、これらの本を読むのが面白いと思っています。この講座では、現代において社会学の古典を読む面白さを探り、そこから何が考えられるのかを、検討してみるつもりです。

講座スケジュール

講座	月日	テーマ	内容
第1回	6/6 (木)	古典と社会学	現代の社会に関心を持っているはずの社会学なのに、なぜ過去の時代に書かれた古典を読むのか。改めてその意味を考えてみます。
第2回	6/13 (木)	コントの三段階の法則	目の前の社会が混乱していて、どうしたら良いのかわからない。そんな悩みに直面したコントの思考をたどってみます。
第3回	6/20 (木)	デュルケムの職能団体論	社会というまとまりを維持しながらも、私たち個人が自由になるにはどのような工夫が必要なのか。デュルケムの提案を検討してみます。
第4回	6/27 (木)	作田啓一の日本社会論	西洋社会を基盤として生まれた社会学の知を日本で生かすにはどうしたら良いのか。作田啓一の苦心に学びます。

講師プロフィール

講師：流王 貴義

東京女子大学 現代教養学部
国際社会学科 社会学専攻 准教授

■ 経歴

東京大学文学部卒業、同大学院人文社会系研究科博士課程修了。博士（社会学）。

■ 現在の研究・関心

「社会学」という認識の仕方はなぜ生まれ、どのような背景のうえに機能し、その現代的な意義はどこにあるのか、といった問題に継続して関心を持っています。

■ 主な著書

『デュルケムの近代社会構想』
(ミネルヴァ書房、2019年)

アクセス

■ 西荻窪駅

- ・北口より徒歩12分
- ・北口（1番のりば）より吉祥寺駅行バスで「東京女子大前」下車

■ 吉祥寺駅

- ・北口（3番のりば）より西荻窪駅行バスまたは上石神井駅行バスで「東京女子大前」下車

■ 上石神井駅

- ・南口（1番のりば）より西荻窪駅行バスで「地藏坂上」下車、徒歩5分
- ・南口（1番のりば）より吉祥寺駅行バスで「東京女子大前」下車

※車での来場はご遠慮ください。

